

半導体・電子デバイス会社移管

S M F L サービス拡充

三井住友ファイナンス&リース（SMFL）は中古半導体製造装置の売買や技術サービスを手がける半導体・電子デバイス関連事業で、新品装置の取り扱いを始めるほか、技術サービスも拡充する。10月に同事業を担う部署をSMFLから子会社のSMFLみらいパートナーズ（東京都千代田区）に移すことで、銀行法の制限をなくし事業幅を広げる。国内では官民による半導体関連投資が拡大しており、事業体制を整え商機をつかむ。

SMFLは半導体・電子デバイス関連事業を担う「電子デバイス設備部」をSMFLみらいパートナーズに10月1日付で移管する。銀行法の制限外に同事

業を置くことで事業の幅を広げ、機動性も高める。

半導体製造装置の輸送・保管作業、用力撤去といった新たな周辺サービスを始める。現

在、手がけるオーバルホールや改造、移設作業の請け負いなどを拡大する。

新品装置の取り扱いが早ければ2025年には始める。販売代

MFLの前身である住商リースが1994年に開始。これまでに国内外の大手半導体メーカーなどと取引しており、中古半導体製造装置の累計取り扱い台数



▲韓国安城市に構える安城事業所

半導体製造装置のリース・ファイナンスは、SMFLと引き続き協力する。

中古半導体製造装置の売買は、S

は2万台を超える。電子デバイス設備は日本、韓国、台湾拠点を構え、海外販売比率が約7割超える。SMFLにとと、同社の中古半導製造装置の事業規模業界上位という。

に上 の同 に信 部	国内では半導体受託 製造（ファウンドリ） 世界大手の台湾積 体電路製造（TSMC）、半導体メーカー のラピダス（東京都千 代田区）などが新工場 の建設を進め、政府も 支援を強化している。
-------------------------------	--

SMFLはこうした半導体工場の新設によって技術サービスの受注増を見込む。また、5～10年後に半導体製造装置を仕入れられるように、半導体メーカーとの関係を強化する考え。